

# 東洋・日本美術史

授業科目名	授業題目	単位数	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
東洋・日本美術史概論	仏教美術史概論	2	大島 幸代	3	金曜3限
東洋・日本美術史概論	日本絵画史概論	2	杉本 欣久	4	金曜3限
東洋・日本美術史基礎講 読	美術史料基礎講読—漢文 編	2	大島 幸代	3	月曜4限
東洋・日本美術史基礎講 読	美術史料基礎講読—変体 がな編	2	杉本 欣久	4	金曜4限
東洋・日本美術史基礎実 習	美術作品の取り扱いと実 践	2	杉本 欣久	3	火曜3限、 火曜4限
東洋・日本美術史基礎実 習	美術作品の取り扱いと実 践	2	杉本 欣久	4	火曜3限、 火曜4限
東洋・日本美術史各論	東洋美術史	2	大島 幸代	5	月曜3限
東洋・日本美術史各論	日本近世美術史	2	杉本 欣久	5	水曜3限
東洋・日本美術史各論	中国絵画史	2	竹浪 遠	5	集中講義
東洋・日本美術史各論	仏教美術史	2	大島 幸代	6	月曜3限
東洋・日本美術史各論	日本近世美術史	2	杉本 欣久	6	水曜3限
東洋・日本美術史講読	作品観察実践論—美術資 料を読む	2	杉本 欣久	5	木曜2限
東洋・日本美術史講読	美術史料講読—仏教美術 作品を読む	2	大島 幸代	6	月曜4限
東洋・日本美術史演習	美術作品研究演習	2	杉本 欣久	5	火曜2限
東洋・日本美術史演習	美術作品研究演習	2	杉本 欣久	6	火曜2限

科目名：東洋・日本美術史概論

曜日・講時：金曜 3 限

セメスター：3 単位数：2

担当教員：大島 幸代

コード：LB35303, 科目ナンバリング：LHM-ART201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：仏教美術史概論

2. 授業の目的と概要：仏教美術作品を見る上で基盤となる知識（主題・物語・世界観・形状や素材等）を学ぶ。

3. 学習の到達目標：仏教美術に関する基礎的な知識を総合的に身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 仏教美術と文化財

第2回 寺院の建造物

第3回 仏の姿かたち

第4回 仏伝美術

第5回 仏塔と舍利

第6回 仏像誕生

第7回 仏教の世界観と美術

第8回 浄土という世界

第9回 阿弥陀如来の美術

第10回 薬師如来の美術

第11回 観音菩薩の美術

第12回 地藏菩薩の美術

第13回 文殊菩薩・普賢菩薩の美術

第14回 天の美術

第15回 羅漢の美術

5. 成績評価方法：テスト 60%、授業中に課すワークシート 40%

6. 教科書および参考書：適宜必要な資料を配布

7. 授業時間外学習：参考文献の精読 12 回

テストの準備 1 回

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

## 科目名：東洋・日本美術史概論

曜日・講時：金曜 3限

semester：4 単位数：2

担当教員：杉本 欣久

コード：LB45302, 科目ナンバリング：LHM-ART201J, 使用言語：日本語

### 1. 授業題目：日本絵画史概論

**2・授業の目的と概要：**美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営為や精神を見つめることを目的とする学問である。一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は古代から中世の日本絵画を通覧し、その広範な文化的背景を解きほぐしていく。また、東アジアにおける日本という観点から、中国大陸や朝鮮半島からの影響と日本の独自性についても考える。

**3. 学習の到達目標：**歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つめ、自らを律するための「鏡（鑑）」となり得るところにある。

単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の人間精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。

また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

### 4. 授業の内容・方法と進度予定：

Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

講義だけではなく、視覚機器(プロジェクター) を使用して美術作品を鑑賞する。

- 1 回目 ガイダンス
- 2 回目 日本人と絵画 一画題研究 1ー
- 3 回目 花鳥風月・四季四時 一画題研究 2ー
- 4 回目 筆墨 一東洋絵画の見どころー
- 5 回目 古代の絵画 一白鳳・奈良時代ー
- 6 回目 平安京の思想と美術 一陰陽五行と鬼門ー
- 7 回目 鎮護国家の美術 一平安時代 1ー
- 8 回目 浄土教の美術 一平安時代 2ー
- 9 回目 地獄絵と六道の絵画一平安時代 3ー
- 10 回目 平安四大絵巻一平安時代 4ー
- 11 回目 宮中絵所預とやまと絵の系譜 一鎌倉～室町時代 1ー
- 12 回目 蓬萊山の美術・そして富士山へ 一画題研究 4ー
- 13 回目 禅の興隆と道釈人物画一室町時代 2ー
- 14 回目 禅の興隆と水墨山水画一室町時代 3ー
- 15 回目 登龍門・鯉が龍になるまで一画題研究 5ー

**5. 成績評価方法：**【レポート】最終講義日を提出期限とし、それ以降は受け付けない。  
詳細については、提出前数週間前のうちに授業時間内に伝えるものとする。

### 6. 教科書および参考書：【参考書】

◎基本図書

杉本欣久『鑑定学への招待』（中央公論美術出版）

杉本欣久『武士の絵画―中国絵画の受容と文人精神の展開―』（中央公論美術出版）

辻惟雄『カラー版 日本美術史』（美術出版社）

尾藤正英『日本文化の歴史』（岩波新書 668）

◎美術全集

『原色日本の美術』（小学館 1970 年代前半）

『日本美術絵画全集』大型版・普及版（集英社 1970 年代前半）

『水墨美術大系』大型版・普及版（講談社 1970 年代前半）

『日本美術全集』（学習研究社 1970 年代後半）

『日本美術全集』（講談社 19

**7. 授業時間外学習：**内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が観えていて何が観えていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよい。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

初回の授業は必ず出席すること。

科目名：東洋・日本美術史基礎講読

曜日・講時：月曜4限

セメスター：3 単位数：2

担当教員：大島 幸代

コード：LB31404, 科目ナンバリング：LHM-ART204J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：美術史料基礎講読—漢文編

2. 授業の目的と概要：仏教美術作品を研究する上で欠かせないのが、経典の記述や造像の経緯を記録した文献・石刻史料等の正確な積読である。正倉院宝物の目録の一つ『国家珍宝帳』、寺院の資財帳、作品に記された銘文を中心に、具体的な造形作品と結びつけながら読解する力を養う。

3. 学習の到達目標：仏教美術に関わる史料を読むための基礎的な漢文読解力を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回 積読する史料の概要
- 第2回 史料の積読とディスカッション
- 第3回 史料の積読とディスカッション
- 第4回 史料の積読とディスカッション
- 第5回 史料の積読とディスカッション
- 第6回 史料の積読とディスカッション
- 第7回 史料の積読とディスカッション
- 第8回 史料の積読とディスカッション
- 第9回 史料の積読とディスカッション
- 第10回 史料の積読とディスカッション
- 第11回 史料の積読とディスカッション
- 第12回 史料の積読とディスカッション
- 第13回 史料の積読とディスカッション
- 第14回 史料の積読とディスカッション
- 第15回 史料の積読とディスカッション

5. 成績評価方法：積読発表 60%、ディスカッションへの参加姿勢 40%

6. 教科書および参考書：適宜必要な資料を配布

7. 授業時間外学習：史料の積読 14回

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

○

9. その他：

**科目名：東洋・日本美術史基礎講読**

曜日・講時：金曜 4 限

セメスター：4 単位数：2

担当教員：杉本 欣久

コード：LB45402, 科目ナンバリング：LHM-ART204J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：美術史料基礎講読—変体がな編**

**2・授業の目的と概要：** 日本における歴史資料の原典は肉筆で書かれており、活字で出版された現代の本を見るだけでは不十分な場合が多い。なぜなら読み間違いやミスプリントが多々存在するからである。研究を確かなものとするためには原典資料にあたることは不可欠だが、そのためには古文書やくずし字、変体がなを読む訓練を経なければならない。

そこで本講では、日本美術史の研究に必要な「変体がな」を読みこなすためのトレーニングとして、基礎資料である『名所図会』をはじめとした版本および実作品に付された賛文の基礎を学び、最低限の目標として浮世絵に付された変体がなは読めるようにしたい。

また、内容に即して日本文化の淵源となる基礎的知識を学んでいく。

他専修生の受講生も歓迎するので、ぜひこの機会に歴史資料にアクセスするスキルを高めていただきたい。

**3. 学習の到達目標：**美術史とは作品資料と文献資料の双方から情報を引き出し、作品を制作した人物やその時代の精神を明らかにすることを目的とする。それゆえ、文献資料の読解もおろそかにするわけにはいかず、日本史や中国史の研究者と同等の能力が求められる。それを獲得するためには継続的なトレーニングが必要となるが、本講では入門篇として江戸時代の「変体がな」で書かれた資料に触れ、その基礎を学ぶことを目標とする。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

配布する資料を各自で読解し、残り時間で順番に読み上げていく。講師はそれに対して解説を加える。

1 回目 ガイダンス

2 回～8 回 江戸時代の版本を読む

9 回～14 回 実作品に付された賛を読む

15 回 読解テスト

**5. 成績評価方法：**授業で配布するプリントを読解し、その習熟度および最終回のテストによって評価する。消極的受動的な態度は得点とはならない。十分な出席が必要となり、かつ消極的受動的な授業態度であれば単位は出ない。評価は発表内容とともに主体性の部分で判断する。

**6. 教科書および参考書：【参考書】**

◎基本図書

辻惟雄『カラー版 日本美術史』（美術出版社）

◎美術全集

『原色日本の美術』（小学館 1970 年代前半）

『日本美術絵画全集』大型版・普及版（集英社 1970 年代前半）

『水墨美術大系』大型版・普及版（講談社 1970 年代前半）

『日本美術全集』（学習研究社 1970 年代後半）

『日本美術全集』（講談社 1990 年代前半）

『世界美術大全集』東洋編（小学館 1990 年代後半）

『日本美術全集』（小学館 2010 年代）

**7. 授業時間外学習：**授業で講読した資料の復習を十分に行うとともに、関連する資料にも目配りして日頃から触れておくことを求める。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

○

**9. その他：**

単位を取得するためには、全体の 3 分の 2 以上の出席を要する。

**科目名：東洋・日本美術史基礎実習**

曜日・講時：火曜3限、火曜4限

セメスター：3 単位数：2

担当教員：杉本 欣久

コード：LB32307, 科目ナンバリング：LHM-ART205J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：美術作品の取り扱いと実践**

**2・授業の目的と概要：**日本の博物館や美術館に展示される作品は、日本の文化性をそのまま体現したものであることは言うまでもない。

その深遠な背景を明らかにすることは一朝一夕にはできないが、それを身近に触れて扱うような経験も一方では必要となってくる。

そこで本講義では、さまざまな素材で成立する美術作品をより深く理解すべく、作品の取り扱いを通じ、日本人がそれらのものにどのような思いを抱いてきたのかを学ぶ機会とする。

**3. 学習の到達目標：**美術館や博物館でも通用するような美術の取り扱い、調査、展示についての基礎的な技術を習得する。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。

1. ガイダンス・学芸員になるために 一博物館の実状と学芸員という仕事
2. 博物館見学
3. 「折本」「冊子」「卷子」の基礎と取り扱い
4. 「掛軸」の基礎と取り扱い1
5. 「掛軸」の基礎と取り扱い2
6. 「屏風」の基礎と取り扱い1
7. 「屏風」の基礎と取り扱い2
8. 古地図散歩-ブラ八幡
9. 博物館見学
10. 「刀剣」の基礎と取り扱い
11. 「刀装具」の基礎と取り扱い・乾拓実習
12. 「和鏡」の基礎と取り扱い・湿拓実習
13. 「仏像」の基礎と取り扱い
14. はんこをよむ一篆書の基礎
15. 展示をみる-藤崎におけるブランド店

**5. 成績評価方法：**出席 [80%]・授業態度 [20%]

**6. 教科書および参考書：**資料はその都度配布する。

**7. 授業時間外学習：**展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

○

**9. その他：**

4セメ(後期)の東洋・日本美術史基礎実習もあわせて履修することが望ましい。

実際の作品を扱うため、それなりの緊張感を持って臨むこと。

基本的にグループ学習であることから、人とのコミュニケーションが必要となる。

**科目名：東洋・日本美術史基礎実習**

曜日・講時：火曜 3 限、火曜 4 限

セメスター：4 単位数：2

担当教員：杉本 欣久

コード：LB42309, 科目ナンバリング：LHM-ART205J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：美術作品の取り扱いと実践**

**2・授業の目的と概要：**前期からの引き続きとなる本授業では、美術館博物館における展覧会の実際を学ぶことを目標とするため、授業は以下の内容で進める。

- 1、調書の作成—実際の作品を用いた調査を行う
- 2、展覧会の解説を読む—展覧会の解説に必要な情報とは何かを学ぶ
- 3、展覧会をつくる—図書館の多目的室を使用し、江戸時代の絵画 50 点前後を陳列する展覧会を行う

**3. 学習の到達目標：**美術館博物館の主要事業である展覧会の業務を学ぶ。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

この科目は「対面授業」です。また、Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. ガイダンス
2. 博物館・美術館見学
3. 調書の作成 1—作品観察編
4. 書の作成 2—実作品を調査する 1
5. 調書の作成 3—実作品を調査する 2
6. 展覧会をつくる 1—構想から作品選択まで 1
7. 展覧会をつくる 2—構想から作品選択まで 2
8. 展覧会をつくる 3—セクションごとの構想プレゼン
9. 展覧会をつくる 4—ポスター・チラシの作成
10. 展覧会をつくる 5—ポスター・チラシの作成 2& 解説を読む 1
11. 展覧会をつくる 6—解説を読む 2
12. 展覧会をつくる 7—解説を書く 1
13. 展覧会をつくる 8—解説を書く 2
14. 展覧会をつくる 9—解説を書く 3 (キャプション作成)
15. 展示作業

**5. 成績評価方法：**出席 [80%]・授業態度 [20%]

**6. 教科書および参考書：**資料はその都度配布する。

**7. 授業時間外学習：**展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

○

**9. その他：**

4セメ(後期)のみの受講は認めない。必ず3セメ(前期)の東洋・日本美術史基礎実習も履修すること。実際の作品を扱うため、それなりの緊張感を持って臨むこと。

科目名：東洋・日本美術史各論

曜日・講時：月曜3限

セメスター：5 単位数：2

担当教員：大島 幸代

コード：LB51305, 科目ナンバリング：LHM-ART301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：東洋美術史

2・授業の目的と概要：東アジアの美術において長らく題材となってきた神仙、聖山、帝王、仏教僧等の図像や作品を、神話伝説や伝記物語等の典拠とあわせて学ぶ。

3. 学習の到達目標：東アジア美術の主要な題材を識別し、歴史の中に位置づける力を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 伏羲と女媧

第2回 日月

第3回 西王母

第4回 崑崙山

第5回 蓬萊山

第6回 桃源郷

第7回 始皇帝1—始皇帝陵

第8回 始皇帝2—始皇帝暗殺

第9回 張騫

第10回 仏教伝来1—漢夢求法説話

第11回 仏教伝来2—中国の初期仏像

第12回 石窟摩崖の仏像

第13回 玄奘三蔵1—伝記と生涯

第14回 玄奘三蔵2—渡天の旅

第15回 玄奘三蔵3—将来品インパクト

5. 成績評価方法：レポート80%、授業中に行うワークシート20%

6. 教科書および参考書：適宜必要な資料を配布

7. 授業時間外学習：参考文献の精読15回

レポート作成1回

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

**科目名：東洋・日本美術史各論**

曜日・講時：水曜3限

semester：5 単位数：2

担当教員：杉本 欣久

コード：LB53302, 科目ナンバリング：LHM-ART301J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：日本近世美術史**

**2・授業の目的と概要：** 美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営為や精神を見つめることを目的とする学問である。一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は「日本絵画史」の続編にあたり、東アジアにおける文化の総決算ともいえる江戸時代に焦点を絞り、その広範な文化的背景を解きほぐしつつ、主要な美術作品の諸様相について概観していく。「絵画」のみではなく、「刀剣」「刀装具」「染織」などの諸工芸についても言及し、東アジアのなかの日本という観点から、中国大陸や朝鮮半島からの影響と日本の独自性についても考える。

**3. 学習の到達目標：** 歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つめ、自らを律するための「鏡（鑑）」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の人間精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

講義だけではなく、視覚機器(プロジェクター) を使用して美術作品を鑑賞する。

- 1 回目 唐絵とやまと絵—江戸時代以前ダイジェスト
- 2 回目 狩野派の系譜 1—御用絵師・正信から元信へ
- 3 回目 狩野派の系譜 2—永徳と桃山の大家
- 4 回目 狩野派の系譜 3—探幽と江戸狩野の確立
- 5 回目 8代将軍徳川吉宗の事績と狩野派
- 6 回目 英一蝶と英派の絵画
- 7 回目 京の町絵師 1—俵屋宗達から宮崎友禅へ
- 8 回目 京の町絵師 2—尾形光琳と乾山
- 9 回目 雪舟流の絵画—長谷川派と雲谷派
- 10 回目 『芥子園画伝』と文人画の黎明
- 11 回目 武士の絵画 1—鑑戒
- 12 回目 武士の絵画 2—暢神
- 13 回目 対外交渉と長崎派
- 14 回目 来舶清人・沈南蘋と南蘋派
- 15 回目 美術史と鑑定

**5. 成績評価方法：** 授業ごとに 400 字程度のレポートや課題を課し、その総合点によって評価する。このレポートは出席点も兼ねる。

1 週間の提出期限を設けるが、内容についてクラスルームにて伝えるものとする。

**6. 教科書および参考書：【参考書】**

◎基本図書

杉本欣久『鑑定学への招待』（中央公論美術出版）

杉本欣久『武士の絵画—中国絵画の受容と文人精神の展開—』（中央公論美術出版）

辻惟雄『カラー版 日本美術史』（美術出版社）

尾藤正英『日本文化の歴史』（岩波新書 668）

◎美術全集

『原色日本の美術』（小学館 1970 年代前半）

『日本美術絵画全集』大型版・普及版（集英社 1970 年代前半）

『水墨美術大系』大型版・普及版（講談社 1970 年代前半）

『日本美術全集』（学習研究社 1970 年代後半）

『日本美術全集』（講談社 19

**7. 授業時間外学習：** 内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学べるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何

を観ていないか、あるいは何が観えていて何が観えていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよ。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他：**

初回の授業は必ず出席すること。

科目名：東洋・日本美術史各論

曜日・講時：月曜3限

セメスター：6 単位数：2

担当教員：大島 幸代

コード：LB61301, 科目ナンバリング：LHM-ART301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：仏教美術史

2. 授業の目的と概要：日本・朝鮮半島・中国を横断する視点から、テーマ別に仏教彫刻・絵画を取りあげ、主題・図像・材質・技法等において各地域で共有されるもの、変容したものを考察する力を養う。

3. 学習の到達目標：東アジアという広い視野で仏教美術を捉える力を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回 色と色材1
- 第2回 色と色材2
- 第3回 紙と絹の話
- 第4回 木の話
- 第5回 阿弥陀如来と浄土の美術1
- 第6回 阿弥陀如来と浄土の美術2
- 第7回 来迎美術1
- 第8回 来迎美術2
- 第9回 十王信仰の美術1
- 第10回 十王信仰の美術2
- 第11回 変相1
- 第12回 変相2
- 第13回 変相3
- 第14回 伝記絵1
- 第15回 伝記絵2

5. 成績評価方法：レポート80%、授業中に行うワークシート20%

6. 教科書および参考書：適宜必要な資料を配布

7. 授業時間外学習：参考文献の精読15回

レポート作成1回

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

**科目名：東洋・日本美術史各論**

曜日・講時：水曜 3 限

セメスター：6 単位数：2

担当教員：杉本 欣久

コード：LB63301, 科目ナンバリング：LHM-ART301J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：日本近世美術史**

**2・授業の目的と概要：** 美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営為や精神を見つめることを目的とする学問である。一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は前期に引き続き、東アジアにおける文化の総決算ともいえる江戸時代に焦点を絞り、その広範な文化的背景を解きほぐしつつ、主要な美術作品の諸様相について概観していく。「絵画」のみではなく、諸工芸についても言及し、東アジアのなかの日本という観点から、中国大陆や朝鮮半島からの影響と日本の独自性についても考える。

**3. 学習の到達目標：** 歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つめ、自らを律するための「鏡（鑑）」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の人間精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

講義だけではなく、視覚機器(プロジェクター) を使用して美術作品を鑑賞する。

- 1 回目 名物刀剣と江戸時代の剣術
- 2 回目 刀装具と鐔の意匠性
- 3 回目 江戸と浮世絵 1 一師宣・祐信・春信一
- 4 回目 江戸と浮世絵 2 一蔦屋重三郎と写楽・歌麿一
- 5 回目 江戸と浮世絵 3 一北斎・広重一
- 6 回目 京都と円山派 1 一円山応挙一
- 7 回目 京都と円山派 2 一応挙の門人たち一
- 8 回目 京都と四条派 一蕪村、呉春とその門人一
- 9 回目 天下の台所・大坂の絵画
- 10 回目 近江商人の絵画と北関東への伝播
- 11 回目 江戸の絵画 1 一18 世紀の絵画状況(谷文晁の登場前夜)
- 12 回目 江戸の絵画 2 一谷文晁の登場と洋風画の隆盛
- 13 回目 伊藤若冲 一その真実を探る
- 14 回目 東北の絵画一美術史の問題と研究の可能性

**5. 成績評価方法：** 授業ごとに 400 字程度のレポートや課題を課し、その総合点によって評価する。このレポートは出席点も兼ねる。

1 週間の提出期限を設けるが、内容についてクラスルームにて伝えるものとする。

**6. 教科書および参考書：【参考書】**

◎基本図書

杉本欣久『鑑定学への招待』（中央公論美術出版）

杉本欣久『武士の絵画―中国絵画の受容と文人精神の展開―』（中央公論美術出版）

辻惟雄『カラー版 日本美術史』（美術出版社）

尾藤正英『日本文化の歴史』（岩波新書 668）

◎美術全集

『原色日本の美術』（小学館 1970 年代前半）

『日本美術絵画全集』大型版・普及版（集英社 1970 年代前半）

『水墨美術大系』大型版・普及版（講談社 1970 年代前半）

『日本美術全集』（学習研究社 1970 年代後半）

『日本美術全集』（講談社 19

**7. 授業時間外学習：** 内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が観えていて何が観えていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくとうい。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

初回の授業は必ず出席すること。

**科目名：東洋・日本美術史各論**

**曜日・講時：**集中講義

**セメスター：**5 **単位数：**2

**担当教員：**講師（非）

**コード：**LB98817, **科目ナンバリング：**LHM-ART301J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**中国絵画史

**2・授業の目的と概要：**中国絵画は古代以来の歴史があり、伝統の上に創造が加えられることで豊かな展開を遂げてきた。この講義では、その始まりから伝統中国の最後の王朝となった清までの展開を、現存作品と関連文献によってたどっていく。美術史の特徴である作品からのアプローチを重視し、各時代の代表作例を軸に論じていくことで、研究の方法を具体的に提示する。さらに作品成立の背景にある思想や文化等についても紹介する。中国絵画は日本絵画へ与えた影響も大きいいため、その具体的な様相にも言及する。以上によって、中国絵画史の総合的な理解が得られることを目的とする。

**3. 学習の到達目標：**中国絵画史に関する基礎的な知識を理解するとともに、研究方法についても習得し、作品の意味や表現について自発的に観察、考察が行えるようになることを目標とする。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

講義レジュメを配付し、主な画家や代表的な作品、時代背景などを解説する。関連作品はプロジェクターや複製によって提示する。

- 1 中国絵画のルーツ 1：新石器時代～殷・周（玉器、青銅器、金文）
- 2 中国絵画のルーツ 2：春秋戦国（工芸意匠）
- 3 古代帝国の造形 1：秦（始皇帝陵）
- 4 古代帝国の造形 2：漢（仙界を巡る画像）
- 5 人物画の発達と画の六法：魏晋南北朝（顧愷之、陸探微）
- 6 道釈人物画の隆盛：隋～唐 1（閻立本、吳道玄）
- 7 盛唐における山水の変と中唐の水墨画：唐 2（海図と樹石画）
- 8 華北・江南山水画の成立：五代（荆浩、関仝、董源、巨然）
- 9 山水画の黄金期：北宋 1（李成、范寛、郭熙）
- 10 文人画の確立：北宋 2（文同、蘇軾、李公麟、米芾）
- 11 徽宗とその画院：北宋 3（王希孟、張昞端）
- 12 院体画と僧侶の墨戯：南宋（李唐、馬遠、夏珪、牧谿、玉潤）
- 13 文人画の発展：元（趙孟頫と元末四大家）
- 14 浙派から呉派へ：明（戴進、李在、呂紀、沈周、文徵明）
- 15 南宗画の時代：明末～清（董其昌と清初の正統派、江南諸都市の画派）

**5. 成績評価方法：**レポート：7割

授業参加状況と小課題：3割

**6. 教科書および参考書：**『世界美術大全集 東洋編』（小学館）（全17巻、1997～2001年）。

小川裕充『臥遊』（中央公論美術出版、2008年）。

曾布川寛監修『中国書画探訪—関西の収蔵家とその名品—』（二玄社、2011年）。

宇佐美文理『中国絵画入門』（岩波書店、2014年）。

竹浪遠『唐宋山水画研究』（中央公論美術出版、2015年）。

竹浪遠編『松竹梅の美術史』（中央公論美術出版、2023年）。

竹浪遠・山本堯編『龍の美術史』（中央公論美術出版、2026年）。

**7. 授業時間外学習：**日ごろから博物館・美術館・社寺などに出かけ、美術作品を実際に見てもらいたい。また、『論語』、『莊子』、『史記』、『唐宋八家文』など中国の代表的な古典に親しんでほしい。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他：**

**科目名：東洋・日本美術史講読**

曜日・講時：木曜 2 限

セメスター：5 単位数：2

担当教員：杉本 欣久

コード：LB54209, 科目ナンバリング：LHM-ART304J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：作品観察実践論—美術資料を読む**

**2・授業の目的と概要：** 本講は本当の意味での「美術鑑賞」を行うための実践的授業で、講師の近著である『鑑定学への招待』に書いた内容を実際に行う。

つまり、毎回、日本美術史が扱う絵画、彫刻、工芸など諸分野のなかから 1 作品を取り上げ、そこから読み取るべき情報の獲得を「トレーニング」する。

たとえば、絵画作品について「筆遣いが良い」との評価がなされた場合、それを「実感」するためには「感性」によるしかないとい一般的には思われているだろう。ここで言う「感性」とは持って生まれたり、環境によって育まれた個人の「資質」に起因するものだが、そのように規定してしまえば「教育」の余地が失われることになってしまう。けれども、多くの人がそれを「実感」し、共有するためには「教育」が不可欠である。

そこで本講では同じようにみえる類似した 2 作品を提示し、その中に存在する相違点を見出して指摘、発表していく実習形式をとる。作品比較を続けていけば、やがて「どちらが良い線か」「どちらが上手いか」などの「認識」が育まれてくる。

これは美術史研究にとって不可欠な「スキル」であり、その先に「真贋」の判別にも必要な「鑑識眼」の獲得に結びつくのは言うまでもない。

毎回、他学部や他専修の受講生も参加しており、この論理性を重視する方法論はどのような学問にも有効と考える。

未開発の能力が開花する可能性もあるため、美術史を専門としない学生の受講も歓迎する。

**3. 学習の到達目標：** 美術作品を歴史資料として用いる場合だけでなく、一般的な鑑賞の際にも「どこを見れば良いのかわからない」といった声をよく耳にする。それはこれまでの学習方法において、書籍によって何らかの事象を調べることに慣れているものの、対象に即して自分自身の眼でつぶさに観察分析し、情報を読み取る訓練がほとんどなされていないことに起因している。試みに、ある作品を調査せよと指示すれば、多くが実物を観察するより先に、それについて記された本を探すことから始めてしまうだろう。このような姿勢では、いつまで経っても作品そのものから情報

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

Classroom を使用して授業を行うとともに、講義資料と講義情報を発信します。

Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

予習で行ってきた作品観察、解説批判の結果を、最初の 1 時間で受講生が発表する。残りの 30 分は講師が作品について論じる。以下におおよその内容を示しておく。

- 1 回目 ガイダンス
- 2 回目 絵画
- 3 回目 刀装具
- 4 回目 絵画
- 5 回目 刀装具
- 6 回目 絵画
- 7 回目 和鏡
- 8 回目 絵画
- 9 回目 和鏡
- 10 回目 絵画
- 11 回目 陶磁器
- 12 回目 絵画
- 13 回目 受講生による作品の比較発表
- 14 回目 受講生による作品の比較発表
- 15 回目 受講生による作品の比較発表

**5. 成績評価方法：** 事前にクラスルームに掲げる画像を予習として分析しておき、授業当日に行う質疑内容によって評価する。消極的受動的な態度は得点とはならない。

十分な出席が必要となり、かつ消極的受動的な授業態度であれば単位は出ない。評価は発表内容とともに主体性の部分で判断する。

**6. 教科書および参考書：【参考書】**

◎基本図書

杉本欣久『鑑定学への招待』（中央公論美術出版）

辻惟雄『カラー版 日本美術史』（美術出版社）

尾藤正英『日本文化の歴史』（岩波新書 668）

◎美術全集

『原色日本の美術』(小学館 1970年代前半)  
『日本美術絵画全集』大型版・普及版(集英社 1970年代前半)  
『水墨美術大系』大型版・普及版(講談社 1970年代前半)  
『日本美術全集』(学習研究社 1970年代後半)  
『日本美術全集』(講談社 1990年代前半)  
『世界美術大全集』東洋編(小学館 1990年代後半)  
『日本美

7. 授業時間外学習: 内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が観えていて何が観えていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよ。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

○

9. その他:

単位を取得するためには、全体の3分の2以上の出席を要する。

**科目名：東洋・日本美術史講読**

**曜日・講時：**月曜 4 限

**セメスター：**6 **単位数：**2

**担当教員：**大島 幸代

**コード：**LB61401, **科目ナンバリング：**LHM-ART304J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**美術史料講読—仏教美術作品を読む

**2. 授業の目的と概要：**国宝「玄奘三蔵絵」の詞と絵を、典拠となった『大唐大慈恩寺三蔵法師伝』と対照させながら読み、漢文読解力とともに絵画表現の読み取り方も学ぶ。

**3. 学習の到達目標：**仏教美術に関わる史資料を読むための漢文と図像の読解力を身につける。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

- 第1回 史資料の概要
- 第2回 史資料の積読とディスカッション
- 第3回 史資料の積読とディスカッション
- 第4回 史資料の積読とディスカッション
- 第5回 史資料の積読とディスカッション
- 第6回 史資料の積読とディスカッション
- 第7回 史資料の積読とディスカッション
- 第8回 史資料の積読とディスカッション
- 第9回 史資料の積読とディスカッション
- 第10回 史資料の積読とディスカッション
- 第11回 史資料の積読とディスカッション
- 第12回 史資料の積読とディスカッション
- 第13回 史資料の積読とディスカッション
- 第14回 史資料の積読とディスカッション
- 第15回 史資料の積読とディスカッション

**5. 成績評価方法：**積読発表 60%、ディスカッションへの参加姿勢 40%

**6. 教科書および参考書：**適宜必要な資料を配布

**7. 授業時間外学習：**史資料の積読 14 回

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

○

**9. その他：**

**科目名：東洋・日本美術史演習**

**曜日・講時：**火曜 2 限

**セメスター：**5 **単位数：**2

**担当教員：**杉本 欣久

**コード：**LB52206, **科目ナンバリング：**LHM-ART305J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**美術作品研究演習

**2・授業の目的と概要：**毎回、1名が日本または東洋の美術作品の中から特に興味を覚えたものを選び、口頭で発表をおこなう。自身が設定した問題について、作品そのものを十分に観察したうえで考察を行う。

その問題とは 5W1H を基本として考える。

いつ、どこで、だれが、何を目的とし、どのような方法で制作したのか、その存在の意義を明らかにすることを目指す。

その作品について先行研究がある場合には、まず研究の歴史を十分に回顧する。

先行研究が少ない場合は、自らが作品に関する基礎資料や関連資料を探し、精読し、整理を行って提示する。

発表者はプレゼンテーションを行うとの意識を持ち、発表の順序、言葉の使い方などに注意を払い、出席者に対して自らの考え方を的確に伝えるように努める。

発表：1 時間

質疑応答：30 分

**3. 学習の到達目標：**参加者は、美術史の基礎である作品の分析方法を学び、それを自らの考えとしての的確に他者に伝える技術を獲得する。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

1. イントロダクションー美術史研究の方法論
2. パイロット発表
3. パイロット発表
4. 発表準備
5. 発表準備
6. 発表準備
7. 作品研究発表（4 年次学生）ならびに討論
8. 作品研究発表（4 年次学生）ならびに討論
9. 作品研究発表（4 年次学生）ならびに討論
10. 作品研究発表（4 年次学生）ならびに討論
11. 作品研究発表（4 年次学生）ならびに討論
12. 作品研究発表（4 年次学生）ならびに討論
13. 作品研究発表（4 年次学生）ならびに討論
14. 作品研究発表（4 年次学生）ならびに討論
15. 作品研究発表（4 年次学生）ならびに討論

**5. 成績評価方法：**出席 [50%]・発表態度 [50%]

**6. 教科書および参考書：**授業中に指示する。

**7. 授業時間外学習：**展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他：**

**科目名：東洋・日本美術史演習**

**曜日・講時：**火曜 2 限

**セメスター：**6 **単位数：**2

**担当教員：**杉本 欣久

**コード：**LB62201, **科目ナンバリング：**LHM-ART305J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**美術作品研究演習

**2・授業の目的と概要：**毎回、1名が日本または東洋の美術作品の中から特に興味を覚えたものを選び、口頭で発表をおこなう。自身が設定した問題について、作品そのものを十分に観察したうえで考察を行う。

その問題とは 5W1H を基本として考える。

いつ、どこで、だれが、何を目的とし、どのような方法で制作したのか、その存在の意義を明らかにすることを目指す。

その作品について先行研究がある場合には、まず研究の歴史を十分に回顧する。

先行研究が少ない場合は、自らが作品に関する基礎資料や関連資料を探し、精読し、整理を行って提示する。

発表者はプレゼンテーションを行うとの意識を持ち、発表の順序、言葉の使い方などに注意を払い、出席者に対して自らの考え方を的確に伝えるように努める。

発表：1 時間

質疑応答：30 分

**3. 学習の到達目標：**美術史の基礎である作品分析の方法を身につけ、それを自身の考えとしての的確に伝えるスキルを習得する。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

1. イントロダクションー美術史研究の方法論
2. パイロット発表
3. パイロット発表
4. 発表準備
5. 発表準備
6. 発表準備
7. 作品研究発表（3 年次学生）ならびに討論
8. 作品研究発表（3 年次学生）ならびに討論
9. 作品研究発表（3 年次学生）ならびに討論
10. 作品研究発表（3 年次学生）ならびに討論
11. 作品研究発表（3 年次学生）ならびに討論
12. 作品研究発表（3 年次学生）ならびに討論
13. 作品研究発表（3 年次学生）ならびに討論
14. 作品研究発表（3 年次学生）ならびに討論
15. 作品研究発表（3 年次学生）ならびに討論

**5. 成績評価方法：**出席 [50%]・発表態度 [50%]

**6. 教科書および参考書：**授業中に指示する。

**7. 授業時間外学習：**展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

**9. その他：**